

図画工作の時間の課題

- 1 同じ構図やデザインの作品ばかりが生まれる授業が見られます。
- 2 題材を示すだけで、支援や助言が極端に少ない授業が見られます。

授業改善のための取組として（案）

□ 学習指導要領解説で取り扱う用具や材料について確認しましょう。

- 各学年で取り扱う材料や用具について、次のようにまとめ、繰り返して経験する中で適切な扱いに慣れるようにすることを示している。

・第1, 2学年：土, 粘土, 木, 紙, クレヨン, パス, はさみ, のり, 簡単な小刀類など
 ・第3, 4学年：木切れ, 板材, 釘, 水彩絵の具, 小刀, 使いやすいのこぎり, 金づちなど
 ・第5, 6学年：針金, 糸のこぎりなど

- 絵を描く授業では、クレヨンやパス、水彩絵の具などの画材について、正しい使い方や表現方法を明確にし、本時で教えることをはっきりさせ、児童にも提示する。

□ 個々の児童の表現方法などに幅をもたせるようにしましょう。

- 色々な材料を使えるよう準備し、色々な方法を試せるようにする。
 【例】 クレヨン, コンテ, 水彩絵の具などを準備し、筆で描く, 指で描く, ちぎったり切ったりした紙を貼り付けるなど、児童の表したいことに合わせた表現を選択できるようにする。
- 色や形, イメージなど「表現のポイント」を明示する。
 【例】 「大きさや配置を考えて描こう」 → 画面の構成の工夫のポイント
 「色のバランスを考えて描こう」 → 色合いの工夫のポイント など

□ 一人一人の児童の表現等を認めたり、ほめたりして適切に指導しましょう。

- 活動の中で児童との対話を大切にし、児童の活動を具体的にほめる。
 【例】 「何を描いてよいかわからない」という児童には「見えたもの」や「いいなと思ったもの」などを対話の中から見付けさせたり、「周りにあるものから描いてみたら」などと声かけしたりする。
 【例】 「この部分の筆づかいがきちんと動きを表しているね」、「包装紙を貼ったアイデアがいいね」など児童の活動を具体的にほめたり、授業のポイントをつかんでいる児童の活動を紹介する。
- 色づかいや画面構成など「鑑賞する視点」を明示する。
 【例】 「色の使い方や色合いに注目してみよう」や「大きさや配置などのおもしろさやよさを味わおう」など「表現のポイント」に合わせた視点を明示する。
 【例】 児童のコメントが「きれい」「うまい」などから「ここの色づくりの工夫がすごい。色のつくり方を知りたい」や「どうしてこの組合せにしたのか聞いてみたい」のように変容する。